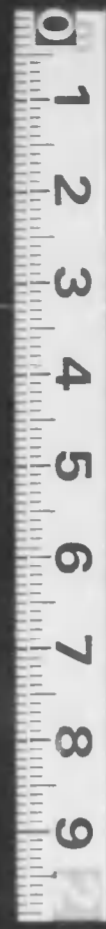


週報

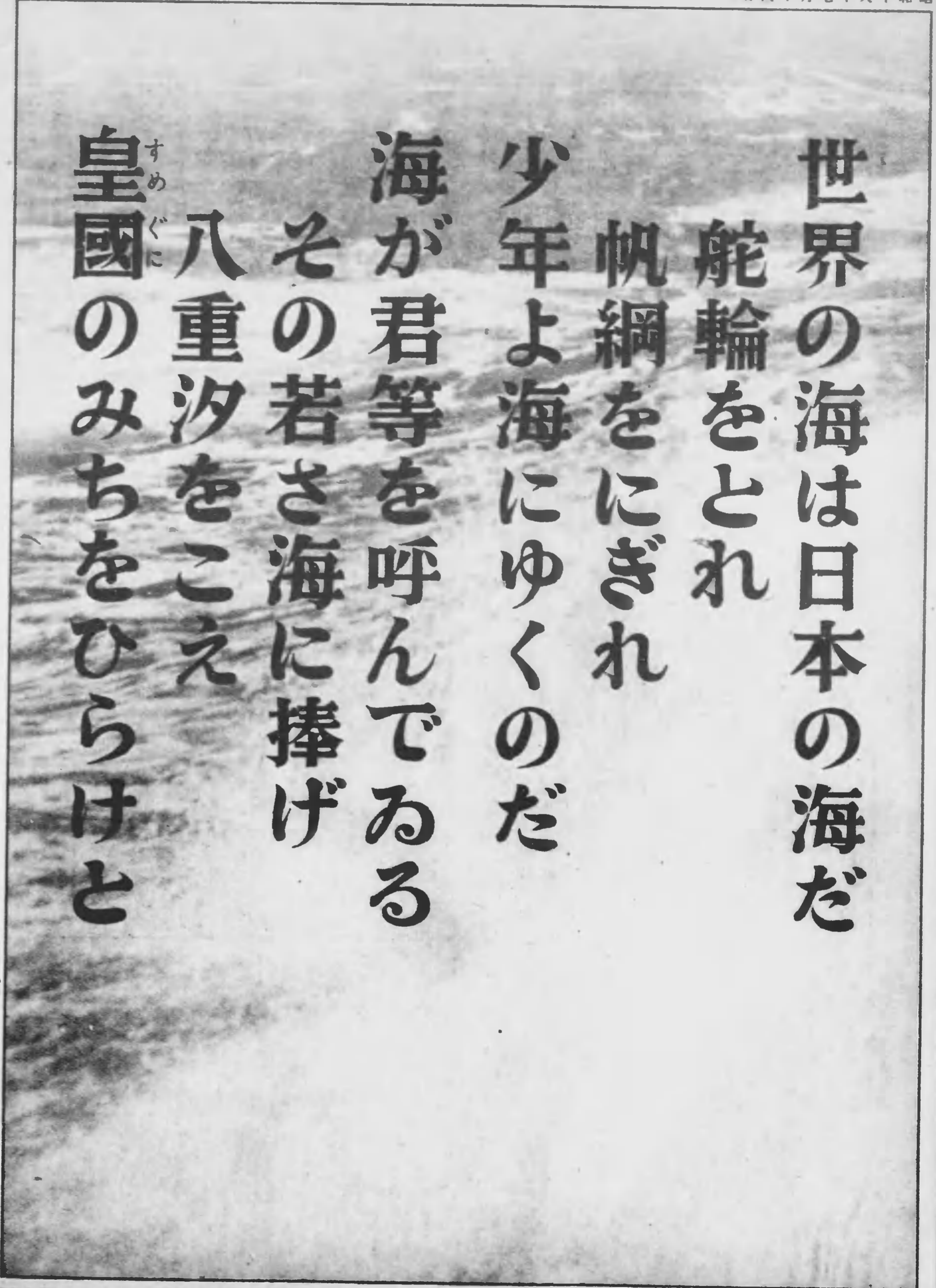
情報局編輯
第七十八百二第・日四十月七



時 立 札

(水曜日)

第十八号



世界の海は日本の海だ

舵輪をとれ

帆綱をにぎれ

少年よ海にゆくのだ

海が君等と呼んでゐる

その若さ海に捧げ

八重汐をこえ

皇國すめぐにのみちをひらけと

印度独立めざし敢然武力闘争へ

在昭南
インド
國民軍

炯々と光る眼！それは英國の鐵鎖を
断ち切り、敢然と獨立に邁進せんとす
る在昭南インド國民軍の眼みである

「時立札」は他へ轉載その他に御利用下さい





印度独立のざし 敢然武力闘争へ

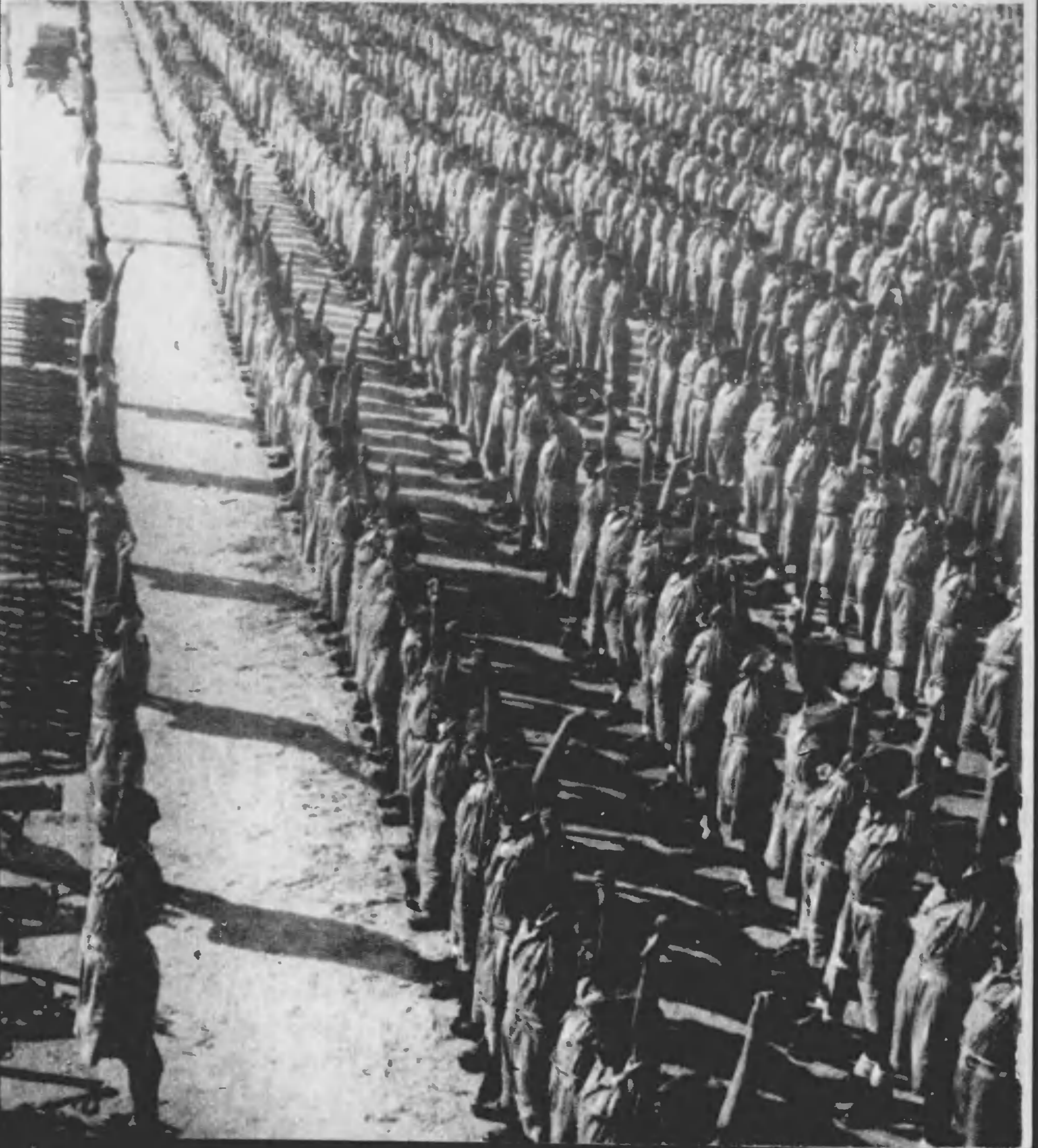
インドが遂に武器をとつて起ち
上る秋が来た

先ごろ歐洲の亡命先ドイツから
來朝のインド獨立の志士、前國民
會議議長スバス・チャンドラ・
ボース氏はいよ／＼東亞からイン
ド獨立戦争の歴史的巨歩を踏み出
すために昭南島に赴き、去る七月
四日同地に陳べられたインド獨立
聯盟大會に出席、自ら前インド獨
立聯盟會長ビハリ・ボース氏に代
つて新たに同盟盟會長に就任する
と共に、直ちに自由インド臨時政
府を組織する旨の劇的宣言を行
ひ、全インド民衆の総力を戦力化
して、斷乎、英帝國擊滅に邁進す
ることになつた

巨象つひに自ら鐵鎖を断つ日來
る。昨年二月シンガポール陥落し、
英帝國が東亞より敗退の第一歩
を印して以來、昭南にあつて終々
この日を期して猛訓練を続け、今
や戰面をかぎり捨て、獨立闘争
の武力的根柢たるの使命を擔ふこ
とになつた在昭南インド國民軍の
意氣軒昂、一日も早く歸國の道を
開いて英兵力驅逐の前途たらんと
期してゐるが、たま／＼昭南を訪
れた東條内閣總理大臣の激勵をう

け、帝國の協力に感謝期待すると
共に、一層その決意を固めてゐる
インド國民軍將兵は團結、信義、
犠牲を信條とし、あくまでインド
解放、倒英獨立に挺身せんとする
インド人青年を以て編成せられる
ものであるが、多年幾多インド人
が熱望して得られかつたインド獨
立のためのインド人部隊の誕生は
實にインド獨立運動史上に劃期的
意義を持つものであり、武力抗争
の具體的な實踐の現はれとして敵
イギリスを恐怖のどん底に叩きこ
むであらう

獨立の貫徹には武力闘争も敢へ
て闘ふと、とインド國民軍の
意氣は既に天を衝く
約集の下、必殺の刺突訓練が繰
けられる 左下
◻ 機甲部隊



争抗の血と奪掠度印の國英るたわに年百二

インドの子供が動物を卵つ国に使はれてゐる。英蘭の
イン 政策を非難したパリの新聞ソール所載の諷刺畫



カルカッタ市の一角に立つホルウェル記念塔、一七五六年六月英人の暴徒に憤激したインド人が一で百余名の英人を殺害したが、チャンドラ・ボース氏は東にインド人の残忍性を記したこの記念塔をたゞき壊せと絶叫して捕へられたことがある



チャンドラ・ボース氏がインド國民會講義の議長であつた頃の會議派領袖。左、ガンヂー翁。右端、チャンドラ・ボース氏



今から四十年前ボンベイ市に起つたヒンズー教徒對回教徒の宗教暴動で、英國の老翁大內閣閣員に乘せられて、インド人たちは同胞相殺む悲劇を又も繰返した



インド政團の英言官はインド人が限制にたへかねて反抗的な行動に出ると、長い棍棒で資敵なく振りつけ、銃制を突きつけて弾壓した



これまで老練な英帝國の分割政策によつて、獨立闘争への統一戦線を獲得できなかったインド民衆も、いよいよ宗教、民族、階級を超越し全インド人の勢力を結集して倒英獨立に邁進する日が来た

想へばイギリスが真にインドにその一指を染めて以来、かつては支那、エチオピア、パピロニアとともに世界最古の文化の發祥地として、殊にその精神文化においては久きにわたつて世界の思想界に影響を及ぼしてきたインド四億の民衆も、同じ東洋の民族としてわれわれが、みるに堪へない惨状を呈して今日に至つた。しかもその間血の抗争に續く血の抗争をもつて自由獨立の道を開かんとし、數多の志士は徒らに暴英の彈壓に斃れ、第一次世界大戦においては好戰と好戰に欺かれて多額の賠償と人員を對獨戰線に供出し、今次大戦においても、また英帝國の崩壊を交へる人柱の役目を強制されようとしてゐるイギリスのインドに行ひ、かつ行はんとする暴徒は正に天人俱に許さざるものといはざるを得ない

英國が刻んだ インド制歴の跡

そも、イギリスが今日のインド制歴を完成した跡を見ると、ウタス・コトガマがインド鐵路を開いて以來、ポルトガールが東に東洋貿易の利益に目をつけ、そのために始る。イギリスがスペインの海陸陸路を奪取して海賊の海上勢力を振出したとき、ロンドン商人の一群が、その特許状を得てイギリス東インド會社を起し、壟斷貿易を始めたのである。この壟斷貿易をつげながら一七五七年フリスと結んだベンガル國の大軍をラックスリーの戦ひに撃破したとき、インド制歴の大勢は決したのである

特許的であつたことは、インドの今日の現状をみれば十分實證される。クライヴ、ヘイスティング等々の東印度會社時代以降、歐米人を知らない強慾なイギリスは、絶えずインド地域における領土の擴張に全力を投入し、一八三四年のベンチヤアア戦争をはじめ、一八二四年のビルマ戦争、一八三八年のアフガン戦争、一八四一年のシンハラ戦争、一八四五年、一八四九年のシーク戦争、一八五二年の第二次ビルマ戦争を経て今日の大増取源であるインドを作りあげたのである。實に言語に絶した流血の増取史といつてもよい

残忍極まる英の 奸策と歴史

しかも、われわれが見て見逃してならないことは、イギリスが武力だけでインドを征服したのではないことである。あらゆる奸計によつてインド教徒と回教徒を反目させ、土族と土族を争はせ、人民と人民とを争はせ、彼らが内訌競争に耽らせたのである。土族は、人民は後門の裏を知らず、イギリスに腕ひの手を求め、自ら苦難と搾取の中に身を投じて、また、富貴手段ではあるが、ことさらに民衆を酒色に溺れさせて、人民に苛酷な要求を行はねば財政が立たぬやうに仕向ける。土族と人民を反目させ、血で血を洗ふ國內戦争を起させるなど實に無類の残忍である。それが今日のインド社會を形作ったのである

時に英國資本の不斷的搾取と搾取が、インドの民衆生活を破壊し、インド民衆を自ら苦しめ、貧窮に追ひつた。この悲惨な状況をみれば、イギリスは、貧窮同然など、相當の自給給を求む

土人並の生活を営んでゐたのであるが、イギリスの侵略以後は、この組織は破壊され、高利貸と高い税金の上に築かれたイギリスに奉仕するため、インドはジャリ貧困に追ひつめられてつた

イギリスはその搾取の目的を達するたため、民衆の教育心を抑へて産業の勃興を阻止し、インド民衆をなるべく最低生活に放置して食ふこと以外生活への反省なきの餘地をなくして来た。インドの資源原料などを自國に持つて歸つてこれを製品化する、今度は逆にインドを自國の市場にするために、これまで相當發達したインドの産業を破壊して、まったく全無の市場を開闢してしまひ、それに服従しない職工の指を切り取つて仕事ができるにない、たとへばはれてゐる。そのほか外國の競争品が現はれると高い關稅障壁を設けて、インド民衆に高價な代價を拂はせ、また慘酷な重稅を課するなど、インド民衆の最低生活を破壊するに至つたのである。一七七年にインドを襲つた大艦隊には、餓死一千人にも達したといふ。前世界大戦の戦禍も過ぐ及はない人類史空前の大慘事であらう

暴英へ全インド 血の反抗

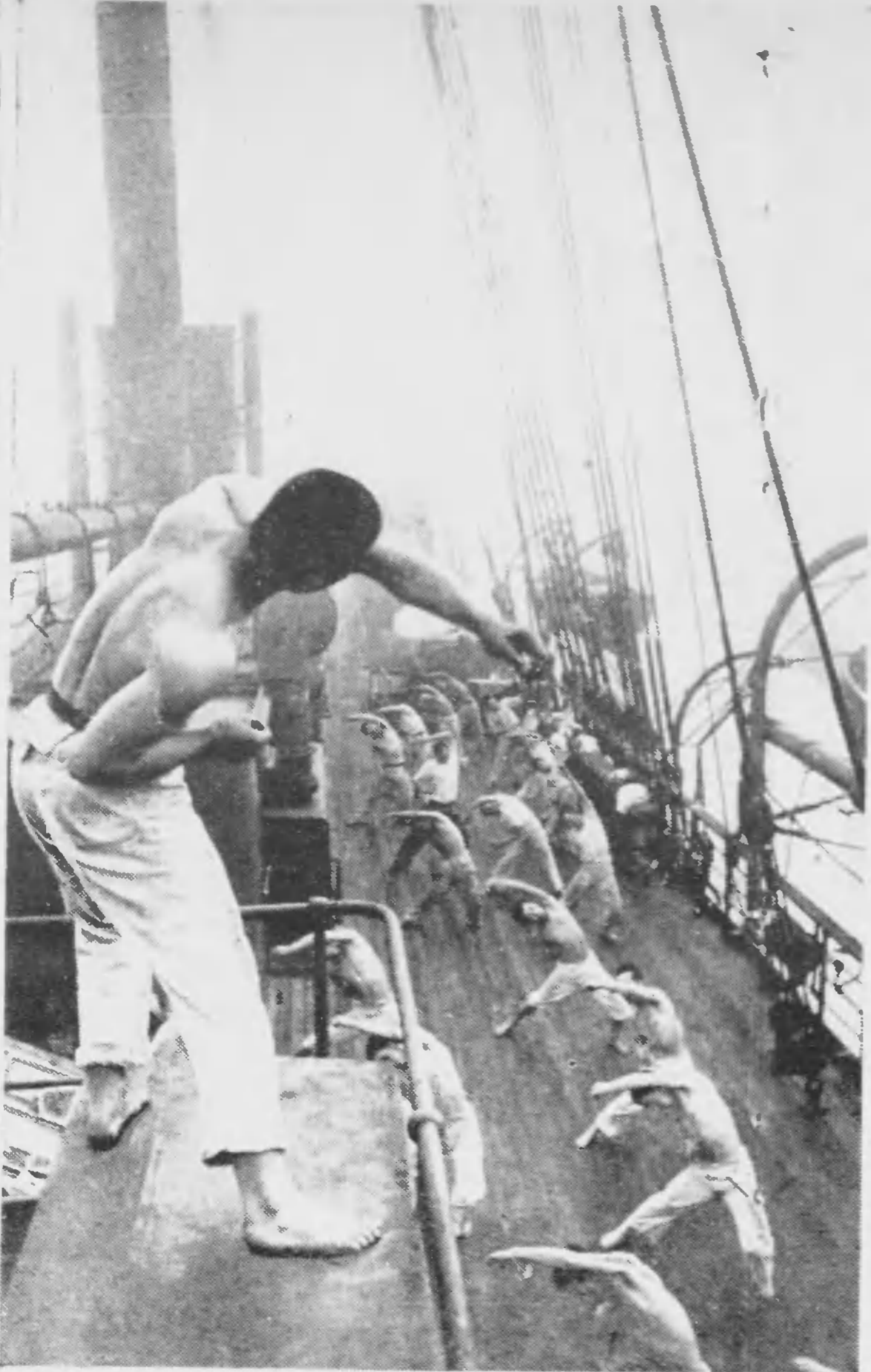
この卑劣に對する民衆の抑へがたい憤念は、一八五七年にインド兵の叛亂となつて現れ、十九世紀に入つては農民と手工業者の暴徒は始るといふものとなつて、今日の印度には一八五七年の叛亂は、イギリス側では単なるインド兵の騒ぎにとどまらず、印度の實情にイギリスの搾取の殖民政策に對する民族的な反抗であり強力な報復だつたのである。この大叛亂に對するイギリスの野蠻的な弾壓

は實に惨しい東洋人の血を流さしめてゐる。このやうにイギリスのインド支配は、強化の一途を辿つてこそすれ、決して獨立自由を許容するていものではない。前世界大戦においても一寸その素振を見せたが、これは戦後直ちに假面をぬいでしまつた

今度の戦争でもまたイギリスは、インド民衆の強力な反對にも拘はらず、無理矢理インドを戦争に引き入れてしまつた。「自由擁護のための戦争ならば先づインドに自由を與へよ」とインド民衆は叫ぶ。しかし馬身東風のイギリスは不常の彈壓を行使してインドの物的資源及び人員を極度に動員して、インドの犠牲において英國國の前途を支へようとしてゐる。これに對してインド民衆は、民族の當然の權利としてこれに抗し、最近の食糧飢饉に伴つてインド各地に血なまぐさい暴動が益々深刻な様相をもつて勃發してゐる。この間クリアスなどが前世界大戦當時と同じ異曲の快楽策に奔走したが、今度こそインド民衆はその手に乗らざ、英印關係は、世界戦局に大東亞戦争における日本の赫々たる戦果とともに一つの前途に達しようとしてゐる

最近、リンドスゴロに代つて現英印軍總軍司令官ウェーデルがインド總督に任命されたといはれる。これは最後の段階に立つたイギリスの、徹底的な武力弾壓を意味するかも知れない

しかし「インド人のインドを造れ」と絶叫し、全インド民衆の戦力化を叫ぶチャンドラ・ボース氏を會長に迎へたインド獨立聯盟の陣下には、鐵の如き獨立の意志をもつて編成されたインド國民軍がある。曲には曲を、いま、インド民衆は暴英打倒に武器をとつて起つたのだ



練習船で戦ふ海へ

進徳丸



海軍志望者の手引
満十四歳以上で国民学校卒業程度の学力がある者は、大阪普通海員養成所(大阪府和泉市北町)に航海、機関の二科があります。修業期間は三ヶ月で入所時期は毎月。入所すると寄宿舎に入り制服、訓練器具は貸与されます。満十三歳以上十八歳未満で国民学校高等科二年卒業または同じ程度以上の学力がある者のためには、見島(岡山縣津野町)、小樽(小樽市湖見町)、唐津(佐賀縣唐津市大島)、宮古(岩手縣宮古市磯崎)、七尾(石川縣七尾市小島地内)、宮崎(宮崎縣宮崎市日ノ出町)の各海員養成所があります。修業期間は一年で、入所の時期は大體四月と十月で、入所すれば寄宿舎に入り、制服、訓練器具を貸与されます。卒業後十八歳以上で一定期間乗船した者には乙種二等海士、または乙種海士の特免資格が授けられますが、二十歳以上で更に一定期間乗船した者には乙種一等海士、近海汽船又は汽船船長試験を受ける場合は筆記試験を免除されます。一年以上乗船した者は志願の上海兵團に入り、海軍訓練員に採用されます。

一方中等学校を卒業した若人は、東京、清水、神戸の各高等商船学校に入り、卒業二年半、海軍砲術学校で半年を最へに鍛へて、航海訓練所生徒となり見るからに颯爽たる練習船日本丸、大成丸、進徳丸、海王丸に乗組み、帆船實地の教育で最後の仕上げを行つてから、待望の海へ出陣するのだ。

以後以来作戦に、また後方の輸送に、あらゆる辛酸をなめて奮闘してをられる日本郵船株式會社の諸氏を頼はし、戦ふ海の言葉を綴つて海の記念日の贈物とした

戦ふ海の座談會

御奉公してある人々の誇りと決意が十分にしみ出てみよう。われわれは、この誇りと決意をつぎ、更に海に征く青少年が一人でも多からんとを期すしたい

出席者 高田正夫氏(船長、海軍部長、田口英重氏(船長、西澤益彦氏(事務長、尾形傳十郎氏(海軍部長、三木豊蔵氏(甲種長、三雲野猛虎氏(二等海士)、濱岡三郎氏(前船長、三島嘉助氏(船長)

高田(船長) 最初に今度の東大東戦争の勃発前と勃発後の大東亞の海といつた話題、特にわれわれの目に映じた變つた點などから話に入つて貰ひたいので

高田(船長) 皮切りに私から感じた點を申します。われわれが戦争の前、香港なりシンガポールなどに寄港してみると、米英蘭人はわれわれ東亞民族をみると、まるで奴隷のやうで、一言目には足踏にする、鞭でなぐるといつた風な暴虐を働いてゐた。それが戦争後同じ海に入つてみると、そんなことがどこにも見られない。原住民も公然として皇軍に協力して、心からその日々の暮しを楽しんでゐる様が見てとれる。この點われわれは、今度の戦争は全く東亞

民族の解放戦争であるといふことを深く考えた。なほ、これはシンガポール、今の暹南ですが、これが落ちる前のことですが、パレンパンの入口にパンカ島といふ小島がある。その島にシントクといふ飛行場を築いて、パタビとシンガポールの交通を断つる目的で、軍が進駐した。軍は中國人の勞働者を積んでいつたので、これは、その飛行場が破壊されてきて直ぐ使用が出来ないから、それを修繕するといふ目的からたつたのです。ところが敵前上

陸へみますと、實はシンガポール方面から逃げて来たイギリス兵を七、八百名捕虜にした。これを使役に使ふことになつて、私共の連れていつた中國人勞働者は全く用がなくなつてしまつたわけです。そこで先づからは、軍から腕章を買つて一躍階級を昇格して、軍服を着た英國人の將士(このときの最高級者は少佐に及ぶかと覚えて置きます)を指揮したわけです。晩になつて、命令に戻るときには、四列隊になつて歸るのですが、中國人達は分隊長



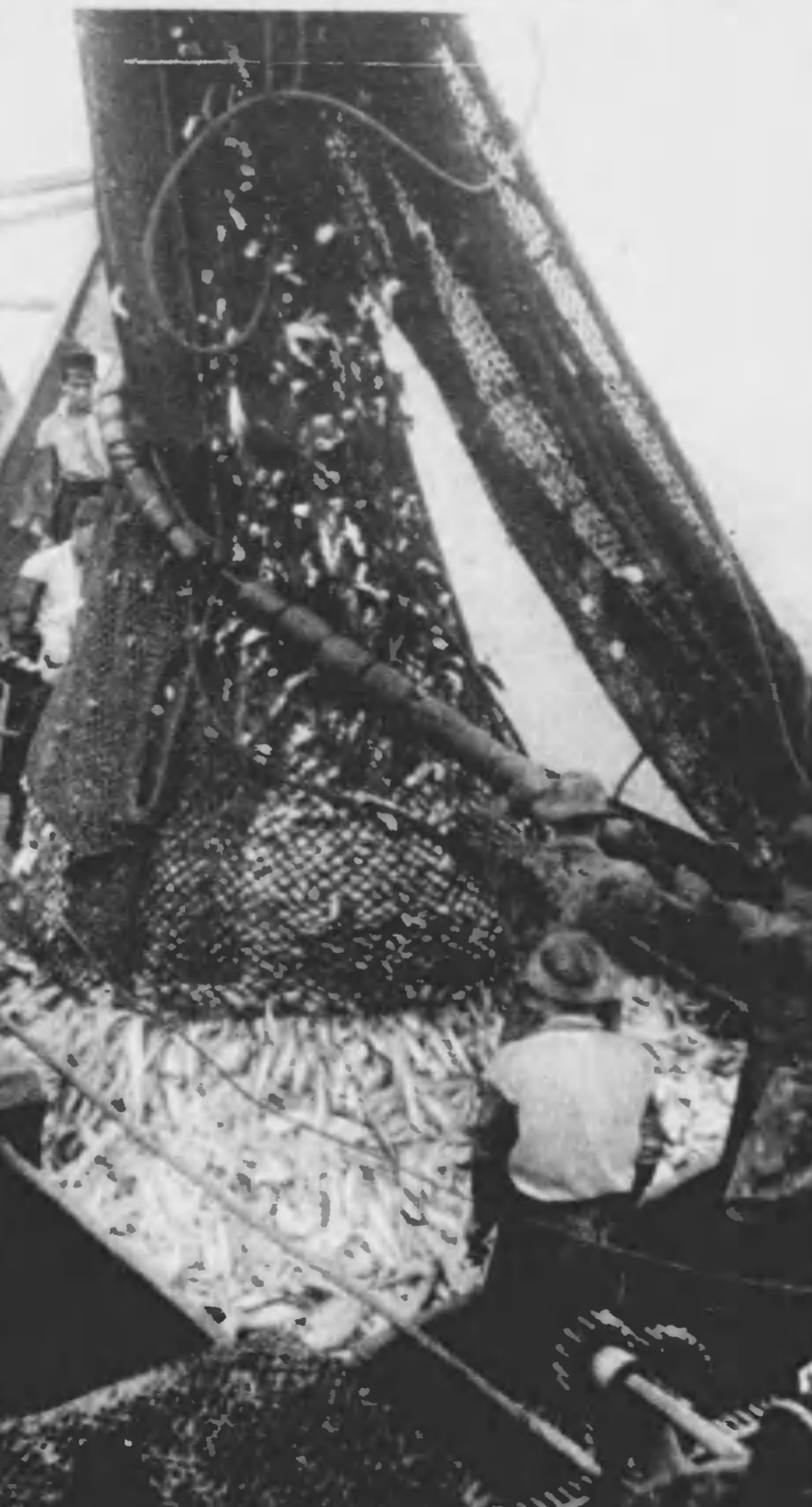
← 獲物は素早く振り分けられる。二十貫もあるニベが入つてゐた



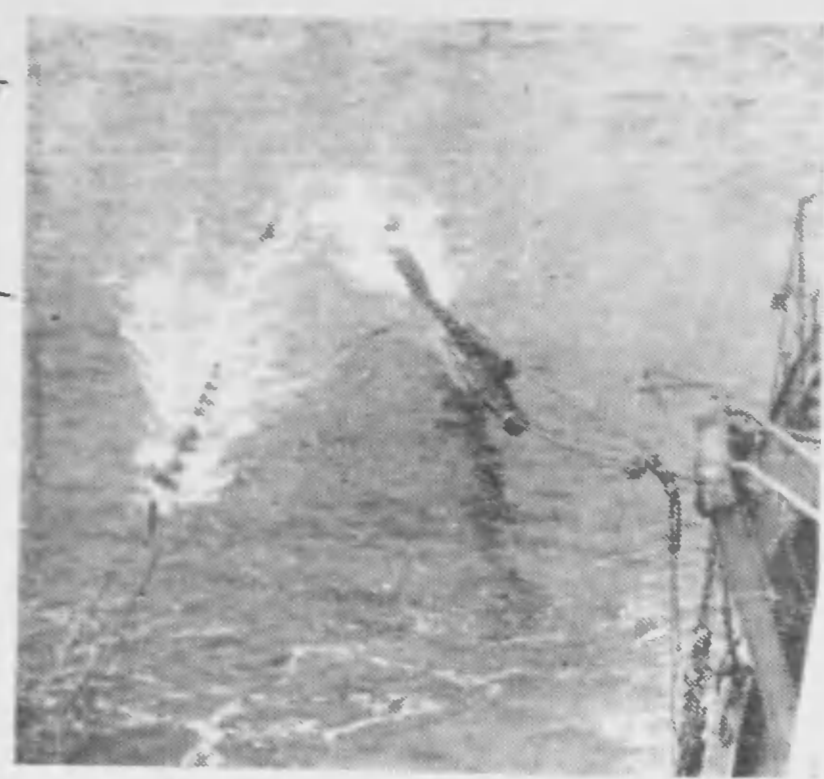
← 四時、五時間。やがて引上作業にかゝつた。ドン／＼とぐり寄せる網袋は大漁に海面へ浮上つてくる



← 魚種別に氷箱に詰められた。かうして冷蔵装置の完備した魚船に貯蔵され、約十日から長い時は二十餘日の漁獲を終へて各基地に歸港する



← 甲板に投出された魚の山——一網約三百貫位の魚獲がある



← 漁船の網を引上げる様子



← 漁船の網を引上げる様子

戦争の現首は、海にゆくことが
すでに戦いに陥つたことだと思へ
てゐる。たとへば艦隊に乗り込み、水
雷をとつて敵と決り合はないで
も、輸送に漁船はと大洋を舞臺
に、御國につくと母本公のみやに
はあはれはないのか

船に身をまかせ、一帯の艦、一
枚の帆をたまたまに、洋上を走り
まわし、或はは手銃でシカから三、三
百トンの小樽船を撃つて、砲火と
煙、波濤を伴ながら戦う海に
魚群を逐つて、食糧増産と國民愛
護の確信を目指して日夜前進をつ
づける水産戦士達もまた、同じく
「水産戦士」を男子の本
舞臺とすゝめ日本のみならずとな
つてゐる。

遠く東支那海を主漁場として、
北は南水とぞと北洋から、南は
赤道を越えてはるか西南太平洋ま
たはまでも魚群を求め、漁獲高の
増進に活躍する「水産戦士」漁業。
こゝにも逞しい海軍日本の一つの
姿がある。

完備した冷蔵冷蔵装置を装備
し、四、五百トン以上、航続力四
十日以上、無電を装備し、魚船も
百數十トン、遠洋用漁能力のすぐ
れた漁船に海軍艦を乗せ、日の
丸の標識も誇らしく、堂々と大洋
に戦いを挑むとき、戦時下日本の
水産戦士もまた高らかに凱歌がま
ちあつた。

格別な甲板に「ニベ」を浴びて風雨中の
漁船準備。獲物もれどした荒天に
も、一年を通じて平均した漁獲を上げ
られること、大きな功業。

戦ひの海に魚群を逐つて トローラーの死決活躍





二人六脚草と競争

馬利川水田中耕除草競争東北大会

水田除草機

日本馬事会主催、農林省後援馬利川水田中耕除草競争東北大会は六月二十四日宮城県志田郡鹿島台村で舉行され、岸馬政局長官はじめ各関係者及び草鞋村長で通る同村村長藤田三之助翁も参列した。

午前十一時、太鼓の音に男子選手二十三名は一斉に馬を水田に入れ、除草機を取りつけた馬を手綱さばきも鮮かに「オーラ、オーラ、ドウ、ドウ」の掛けも勇ましく、あたり水田一帯にひびいた。競技場を運まきに応援の人々も手に汗を握り、オラガ村の聲援に懸命だ。各選手は昨の折返しに四貫五百匁の除草機も軽々と扱ひ、日頃の操作に物をいはず、自信をたっぷり試合は盛々と進行し、一本の苗も踏倒し、スリ倒しのないやうにと氣を配つてゐる。割當は三段歩を一時間十五分の豫定を十分早く前後して終つた。

午後は二時から女子部十三名の競技がはじまつた。女子の割當は二段歩を一時間の豫定。この競技で注目されたのは秋田縣の二十五歳馬で、人間に百歳に相當する老齢であるにもかゝらず終始敢闘した。又、宮城縣の伊藤瑞子さんは女學校二年生で堂々馬を御してゐた。

眞摯政闘の結果、昨れの優勝者は男子部宮城縣高橋雄雄君、女子部も同縣塩野ハル子さんでそれぞれ農林省賞金五十圓、日本馬事会副賞三十圓を授與された。

馬利用除草競技は昨年七月茨城縣眞壁郡伊蹟で第一回大會を開き、本年は第二回目である。馬利用の除草は遠く明治末葉から岡山で初めて行はれ大正末期に再興し、昭和三年、四年から機械も改良され進歩してきた。支那事變、大東亞戰爭となり人力を馬力にとの要求に應じ、飛躍的に全國に普及した。馬利用の除草のためには苗の植方から異なり、馬の通り路に一尺三寸開いて置き、その兩側に九寸の除草機の通路を置く三條取が採用されてゐる。

東北帝大農学部管内ノ浦水田で競技會の幕は初つて落された。男子部一等賞を獲ち得た宮城縣出場の高橋雄雄君。



草鞋村長で通る眞壁郡藤田三之助さんも因縁を吞んで競技を眺める

岸馬政局長官から一等賞を授與される高橋雄雄君

女子部一等賞を獲ち得た宮城縣塩野ハル子さん

大東亞戰爭漫日誌
介選 川石



陸軍省の要員を襲撃する飛行機



陸軍省の要員を襲撃する飛行機



陸軍省の要員を襲撃する飛行機



陸軍省の要員を襲撃する飛行機



陸軍省の要員を襲撃する飛行機

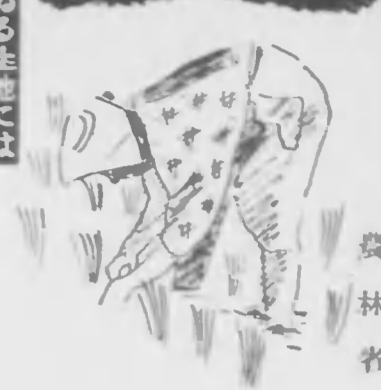


米青年年練成所
後今にぎ次、た、るす足満、白、た、る、の、終、を、真、高、は、君、。そ、た、つ、去、は、代、時、の、健、び、道、と、人、想、て、し、を、ブ、イ、ド、な、洋、靴、
！、だ、る、な、に、氣、遣、一、は、シ、ワ、が、性、根、子、息、ヲ、ド、の、そ、。要、馬、？、と、だ、理、無、ニ、ナ、。よ、だ、り、き、一、日、一、は、給、配、の、種、砂、角



泣き面の若大艦長
千位下の若大艦長も、やれ、敵、軍、第一、主、義、だ、の、。そ、れ、太、平、洋、第、一、主、義、だ、の、と、兩、端、か、ら、引、つ、ら、れ、お、ま、け、に、日、の、丸、と、ハ、ー、ケ、ン、ク、ロ、イ、ツ、に、叩、か、れ、て、は、敵、軍、の、香、煙、の、毒、命、

増産手帖



農林省

大豆、粟、稗等を播付けて、また土地が空いておれば、秋蕎麥等を播付けておきましょう。

作付けには手入れ、管理が肝要です。播付けがすんだら、鳥や虫に喰はれぬやう、草を生やさぬやう注意しましょう。

水田の除草を手まきにするには、昔から精製草を見ずして草を取り中農は草を見て草を取り、精製草は草を見ずして草を取らなければなりません。たゞと努力は不足でも、除草を怠るやうなことがあつてはなりません。暑くとも苦しくとも、前線勇士の労苦を偲んで、立派に除草をやりとげませう。

▼除草は早い日に行ひ、草に追はれないやうに致しませう。これが除草の効果は大なりしめ、作業能率を高める秘訣です。

▼除草は少くとも四回一基地では三回一廻行ひませう。

▼止草の時期が遅れないやうに氣を付けませう。

▼努力の足らぬ地方では畜力も利用させよう。畜力を利用するには、前項で述べたやうに、植方から改めてかからねばなりません。前頁の高真や近くの指導地をよく見ておいて、

馬鈴薯の手入れと出荷に際しての注意

馬鈴薯の疫病に對しては、既に六月中、下旬に一回薬剤を散布されたことですが、今一度石灰ボルドー液、又は銅製液を散布しておきませう。石灰ボルドー液は今日硫酸銅の入手が困難ですから、主として銅製液を散布することになります。その割合は銅製液一號及び二號



偽蠶虫の發生に對しては、甘藷の害虫中白下羽に對すると同様な駆除の方法によりますが、疫病の防除と併せて薬剤散布を行ふ場合は銅製液一石につき硫酸石灰二百匁を加へて用ひて差支へありません。

今日、馬鈴薯はわが國現在の食糧事情から米と若引いて総合配給をしなければならぬほど主食糧として重要であり、政府としてもそれだけ出荷に期待してありますから、農家の皆さんから願ひします。なほ、この場合、馬鈴薯は濡れたまゝ、俵に入れて出しますと、忽ちのうちに腐るおそれがありますから、雨天の時に收穫することを避けるとともに、濡れ薯は陰干してから俵に詰めて出荷しなければいけません。



海軍省の要員を襲撃する飛行機

甘藷の手入れ

甘藷は植付けたらその後は大體手間のかからないのですが、夏がはじくる前に一度雑草をとり、かた／＼葉には上がか／＼ぬやう土寄せをさせよう。また、その際、苗の缺けておるところには是非新しい苗を植えておきませう。

次に、これは西日本一帯では特に肝要なことですが、害虫中白下羽の發生に注意させよう。この害虫は、その幼虫が甘藷の葉を食ひ流すのですが、發生の初期に早く駆除しないでおくと大害を受けて、著しく減収を來します。駆除の方法は硫酸石灰二百匁を水一石に溶かし、大畵扇で五十匁を加へたものを噴霧機で散布すればよろしいのですが、前年既にこの被害をうけた地方だとか、既に今年度苗床で一部その發生をみた地方は特に注意が肝要です。さうした所では、あらかじめ幾合と十分連絡し、薬剤の準備をしておきませう。

偽蠶虫の發生に對しては、甘藷の害虫中白下羽に對すると同様な駆除の方法によりますが、疫病の防除と併せて薬剤散布を行ふ場合は銅製液一石につき硫酸石灰二百匁を加へて用ひて差支へありません。

今日、馬鈴薯はわが國現在の食糧事情から米と若引いて総合配給をしなければならぬほど主食糧として重要であり、政府としてもそれだけ出荷に期待してありますから、農家の皆さんから願ひします。なほ、この場合、馬鈴薯は濡れたまゝ、俵に入れて出しますと、忽ちのうちに腐るおそれがありますから、雨天の時に收穫することを避けるとともに、濡れ薯は陰干してから俵に詰めて出荷しなければいけません。

重要事項に再掲せん

長野縣 小山喜太郎
北佐久郡御牧ヶ原
に開設された長野縣
立防務訓練所にはす
でに職業隊士が入所
して、農耕に専攻し、
二十日間訓練を行ひ
心身を鍛へた上で、
決意も新たに重要産
業へ進發した

職業隊の身で増産へ
東京府 鈴木久雄
戦友は今も闘つて
ゐる、自分達も何か
御奉公しなければ
傷痍軍人會東京郡四
谷區分會第十班員は
お寺の境内を借り、
仕事の餘暇に食糧増
産へ挺身して止まら
ず正に戦つて止まら
ず精神の發揚だ

★表紙

三年にわたる高等商船學校の課程を終へて航海訓練所生徒となつた若人たちは、最後の仕上げとして練習船で海に出た。海上である。先駆者たちが決死の奮闘をつげておる戦場である。一そら受け帆綱。若人たちが戦ふ海へ出陣の日は近い

必勝の信念を 270億貯蓄 に示さう

大衆の恩給制度ともいはれてお
る郵便年金にはいつて國民貯蓄
の増加に協力しながら銃後の生
活の安定に努めませう。
郵便年金には又お子様方の學資
積立となる定期年金の制度があ
ります。



郵便年金

寫眞週報
(兼轉載)

昭和十八年七月
十四日 印刷發行

情報局

東京郵政局
本町一ノ一
印刷部

内閣印刷局
東京郵政局大子町

一部十錢
(送料一錢)

外埠郵送には
も地域は送料依
共一部十九錢
送料

▲特大號の場合は
眞の郵便物持込
金より差額を申
受けます

所 込 中	價 定
全國各地官報 販賣所	
書店・驛賣店	
新聞販賣店	
寫眞材料店	

本誌を回覧に
本誌を、隣里や職場
で回覧するなど、出
來るだけ有効に御利
用下さい。
前線慰問にも
またお読みになつた
ら本誌を前線慰問に
送りませう。送料は
内地と同様で封封あ
るひは開封にして第
二種と明記すれば、
一部一錢です。

内閣印刷局印刷發行

寫眞週報 昭和十八年七月十四日 第三百八十號